

温かいものが美味しい季節になりましたね(^^)この時期は美味しいものがいっぱいあって幸せです♪

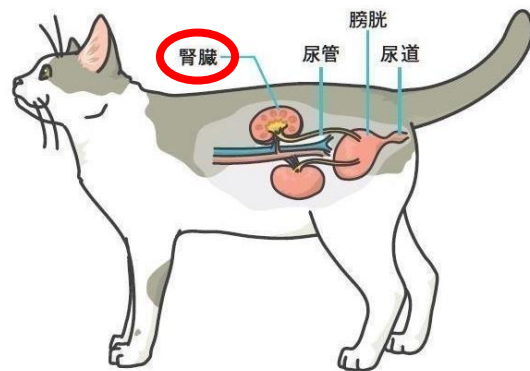
家のねこさん達は寒いと、みんなで暖をとろうとひつつきお団子になっていて、その仲の良さに和みます(*´ω`*)

今回は、腎臓の病気、腎不全についてです。佐々木獣医師のコラムもあるので楽しみに！

腎臓は・・・

人間と同じように右と左に一つずつあります。

体内の尿素などの不要物を血液から取り除き、おしっことして排出するといった、とても大切な働きをする臓器です。



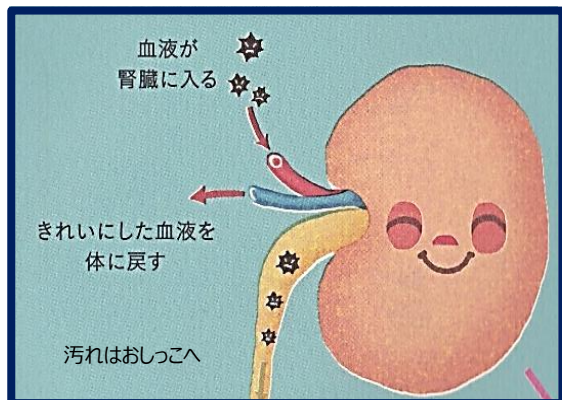
慢性腎臓病とは？

腎臓の中で血液をろ過し、尿を作る部分が徐々に壊れていく病気です。

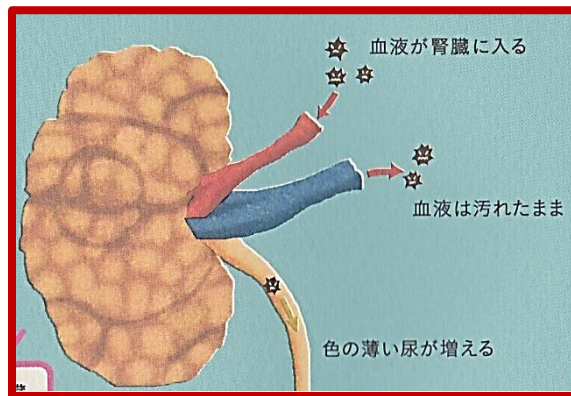
明確な理由はまだ分かっていませんが、犬よりも猫に多く、年をとるにつれて多くの猫は腎臓の機能が徐々に低下していく為、特に 7 歳以上になった中高齢の猫によくみられる病気と言われています。また、腎臓の機能が落ちてきても残っている組織が頑張っているため、なかなか目に見える症状が出ず、症状が出る頃には腎臓の多くの機能が落ちてしまっている、というケースが多いです。

一度機能が落ちてしまった腎臓は、回復することはありません。その為、早期に発見することが重要です。

正常な腎臓



病気の腎臓



腎不全とは？

慢性腎臓病などの様々な原因により腎臓の機能が低下した結果、体内に毒素が溜まって、食べない、吐くなどといった症状が出る状態の事です。

慢性なものとは急性のものがあり、例えば、若くても、腎毒性のあるユリ科の植物を食べてしまい、急激に腎臓の機能が低下し「急性腎不全」になってしまう、ということもあります。

どんな症状があるの？

慢性腎臓病の進行には、ステージが4期あります。裏へ➡

特にこれからの寒い時期は猫ちゃんの飲水量が減り、腎臓病が進行する傾向にあるから注意してね。



第1期

- ・腎臓の機能は100%～33%程度
- ・無症状の事が多く、尿検査、血液検査でも異常を示さないことが多い。



元気いっば
いだよ！

第2期

- ・腎臓の機能は33%～25%程度
- ・飲水量が増える、おしっこの量が増えるといった症状がある。
- ・尿検査で異常を示すことがある。



第3期

- ・腎臓の機能は25%～10%程度
- ・色の薄いおしっこをたくさん出し脱水状態になる、うんちが硬くなる。
- ・食欲の低下、毛並みが悪くなる。また、元気がない、貧血を起こす、吐くなどといった腎不全の状態になる。
- ・血液検査でも異常を示すようになる。

第4期

- ・腎臓の機能は10%以下。
- ・尿毒症になり、食欲が全くなり激しい嘔吐が続く。ひどいと亡くなることも。



最後に・・・

一度機能が低下した腎臓が元に戻ることはありません。ですが、上記にもある通り、第二期くらいまでは気付けるような症状がほとんど無く、尿検査、血液検査だけでは異常を示さないことが多いです。その為早期発見のためには、エコー検査やレントゲン検査なども含めた全身の健康診断を定期的に行うことが大事です！

早期に発見できれば、対策も出来て、進行のスピードも遅らせることが出来るかもしれません。

ここからコラムだよ

猫の慢性腎臓病はよく遭遇する病気の一つです。残念ながら壊れた腎臓を元に戻す方法はありませんが、進行を遅らせたり症状を和らげたりする治療法はあります。よく実施されるものとして

食餌療法
低たんぱく食



点滴



リン吸着剤投与



があります。その時の動物の状態や病気の程度によって使い分けます。

話は変わりますが、私は健康診断で尿酸値が高く出ます。痛風予備軍です。兄弟も尿酸値が高い傾向にあるようで、どうやら遺伝的にそういう体質みたいです。痛風予防のために「こまめに水分を補給する」ことを心がけていますが、近くにお茶や水が無いとおそろかになってしまいがちです。

これは猫も同じで、“好みの水”が近くにないと十分な水分摂取をしてくれません。「こまめに水分を補給する」ことは慢性腎臓病の予防にもなるので、猫が水を飲みやすい環境を整えてあげることはとてもいいことです。例えば・・・

○器・・・大きなもの、陶器製のもの、水面が胸くらいの高さ

○水・・・新鮮、動きがある(流れている)、カルキなし

○水飲み場を複数設置

好みの差があるので、色々試してみると良いと思います、ミネラルウォーターは、モノによっては尿石のリスクになるので避けるのが無難です。ウェットフードやふやかしたドライフードも水分摂取を増やすことが出来ますよ。寒くなると飲水量が減るので、猫の飲水を意識してみましょう。

以上、
佐々木獣医師でした！

